

令和8年度探究型中央研修 コア研修 実施要項

1 目的

変化の激しいこれからの時代を生きる子供たちには、自ら問いを立て、課題を探究し、他者と協働しながら人生を切り拓いていく力が求められる。教職員にはこのような子供の力を引き出せるよう、子供を主語とした探究的な学びを支援することが求められている。

また、学校が授業改善や学校改善を持続的に進めていくためには、教職員集団の間で、目標達成に向け、組織的で協働的な議論や学びが発展していくよう、マネジメントを行う必要がある。

このような、子供や教職員の探究的な学びを展開する上では、教職員自身が、学び手を主語とした探究的な学びを経験し、他者と対話し、自らの教育実践やマネジメント経験、教育観を振り返る中で、「探究するとはどういうことか」、「探究的な学びをつくるとはどういうことか」、「探究的な組織風土はどのように醸成されるか」など、本質的な問いに向き合うことが大切だ。

こういった考えのもと、本研修は、「自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開することで、自他の価値観を捉え直し、新たな問いや実践に向かう」持続的な探究プロセスを提供し、このプロセスを通して、課題を探究する力や、探究的な学びをデザインし、マネジメントする力といった、教職員にとって中核的（コア）に求められている力を高めることを目的とするものである。

2 主催 独立行政法人教職員支援機構

3 共催 文部科学省

4 コース・期間・実施方法・標準定員

コース	参加者	期間	実施方法	定員
探究的な学び 1年コース	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教諭等 (1人、または同じ学校の2人ペアで参加)	(事前説明会※) 令和8年7月10日(金)	オンラインまたは 後日動画視聴	100 名
		令和8年8月5日(水) ～8月7日(金)	対面	
		令和8年11月20日(金)	オンライン	
		令和9年2月2日(火)	オンライン	
学校課題 2年コース	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の校長、副校長、教頭等及び教諭(2人ペアで参加)	(事前説明会※) 令和8年9月25日(金)	オンラインまたは 後日動画視聴	60 名
		令和8年10月26日(月) ～10月28日(水)	対面	
		令和9年1月12日(火)	オンライン	
		令和9年7～8月(1日)	オンライン	
		令和9年11～12月(1日)	オンライン	
		令和10年2月(1泊2日)	対面	

※本研修はインターバル開催であり、参加者はコース内の全日程参加を前提とする。

※事前説明会（オンライン・60分程度を予定）では、研修の主旨および事前課題等の説明と、質疑応答・簡単な協議の時間を設ける予定。当日参加できない参加者は後日動画視聴を行う。

※「学校課題2年コース」においては、文部科学省の実施する高等学校等教育改革促進事業に係る参加枠を設ける予定としている。

5 実施方法・会場等 ※各日程の実施方法は「4 コース・期間・実施方法・標準定員」を参照

(1) 対面

会場：独立行政法人教職員支援機構

〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

※2年コース最終日についても同会場で実施予定。

(2) オンライン

Web会議システムを用いた同時双方向通信によるリアルタイム・オンライン研修

（「Zoomミーティング」（株）Zoomビデオコミュニケーションズ）を使用）

配信元：独立行政法人教職員支援機構

〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

6 参加者

(1) 参加資格

ア 探究的な学び1年コース

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭、主幹教諭、指導教諭等あるいは教育委員会等の指導主事等で、今後、教育実践において各地域の中核としての活躍が期待される者かつ、「探究的な学び」を主題として問いを立て、実践をしながら1年間、主体的に取り組む意欲のある者 ※

※同じ学校からペアで参加する場合は、協働して実践に取り組む意欲のある者

イ 学校課題2年コース

同じ学校の管理職および教諭等の2人1組で参加する。

○管理職

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭等で、今後、学校経営において各地域の中核として活躍が期待される者かつ、現在の勤務校の学校課題について問いを立て、実践をしながら2年間、自校の教諭等と共に協働的に取り組む意欲のある者

○教諭等

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭、主幹教諭、指導教諭等で、今後、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者かつ、現在の勤務校の学校課題について問いを立て、実践をしながら2年間、自校の管理職と共に協働的に取り組む意欲のある者

※「第6次男女共同参画基本計画」（令和8年3月13日閣議決定）を踏まえ、研修における女性教職員の割合を概ね25%以上とすることを、当機構として目標としている。女性の積極的な推薦について配慮すること。

(2) 推薦手続・推薦期限

推薦期限：探究的な学び1年コース …令和8年6月10日（水）

学校課題2年コース …令和8年8月26日（水）

推薦する機関においては、候補者を取りまとめて「研修システム」により推薦を行う。ただし、中核市教育委員会においては、[様式 1]により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。

(3) 参加者の決定

推薦する機関からの推薦に基づき、教職員支援機構が決定し通知する。ただし、標準定員を超過する場合は、参加者数を調整することがある。そのため、「研修システム」により推薦を行う際に、候補者毎に推薦順位を入力すること。

7 研修内容・研修方法

探究的な学びコース：課題を探究する力や、探究的な学びをデザインする力を高めることを目的として、参加者自身が探究的な学びを経験する。

学校課題2年コース：学校課題を協働的に探究する力を高めることを目的として、参加者自身が探究的な学びを経験する。

参加者は、各コースのテーマに沿って自らの実践に関する問いを設定し、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開していく。同じ学校からペアで参加する場合は、問いの設定や実践において、ペアで協働して取り組むこととなる。

8 研修期間中の学習活動について

本研修は学校現場等での実践および、実践に伴う参加者の主体的な学習等を研修の一環とする。

参加者の学習を支援するため、教職員支援機構からは、動画・文書・学習用コミュニケーションツール等の様々な媒体により、参加者が自主的に学ぶことのできる情報の提供等を行う。

上記を踏まえ、参加者の推薦に当たっては、参加者が自主的に学習に取り組むことができる時間の確保等、参加者の研修効果を高める環境について配慮すること。

なお、詳細については、決定通知において通知する。

9 その他

(1) 所定の課程を修了した参加者には、修了証書を授与する。参加者推薦の際に、必ず参加者の氏名を確認し、正確に記入すること。

(2) 本研修では、「Google Workspace」を利用する。利用に際し、Google アカウントや簡易マニュアルは当機構で作成し、参加者決定時に連絡する。

(3) 実施方法が対面の場合は、原則として教職員支援機構の宿泊施設を利用するものとする。

- (4) 当機構は、スムーズで効果的な演習の展開、ファイル交換等の効率化、資料等のペーパーレス化、ICT機器の活用能力の向上等を同時に実現することを目的とし、BYOD (Bring Your Own Device) を導入しているため、実施方法が対面の場合は、参加者が使い慣れたパソコン等を持参すること。
- (5) 実施方法がオンラインの場合は、Web会議サービス「Zoomミーティング」(株)Zoomビデオコミュニケーションズ)を用いて同時双方向通信を行う。参加に当たっては、当該ソフトウェアのインストールや安定したインターネット通信環境の確保の他、相互に音声・映像をやりとりする協議等ができるよう、音声マイク・Webカメラ等の必要機器を備えた端末を、1人1台準備すること。(2人1組で参加する場合であっても、端末の準備は2人1台ではなく1人1台とすること。)
- (6) 実施方法がオンラインの場合は、参加者が研修に専念できるよう、推薦者には適切な参加環境及び研修時間の確保等、特段の配慮をお願いする。
- (7) 「全国教員研修プラットフォーム(以下、「プラットフォーム」という)を利用している自治体からの参加者に関しては、プラットフォームへの本研修の修了状況の登録を当機構で行う。
登録に当たって、参加者のプラットフォームログインIDが必要となるため、プラットフォームを利用している自治体は、推薦を行う際に研修システムより候補者毎にプラットフォームログインIDを入力すること。
- (8) 本研修の参加に際し、特別な配慮が必要な者(障害、持病等)を推薦する場合は、事前に当機構に相談すること。

コア研修の展開について

概要

探究型中央研修「コア研修」(1年コース・2年コース)は、「自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開することで、自他の価値観を捉え直し、新たな問いや実践に向かう」持続的な探究プロセスを、研修として提供します。

本研修では、次のようなことを重視します。

- ・学び手を主語とした学びの視点を、体験的に理解する
- ・問いを見つけ、計画を立て、実践し、振り返りや対話を通して視座の広がりや新たな問いに気付き、実践の改善を図る発展的なサイクルを意識する
- ・将来に渡って、共に探究していくコミュニティを形成する

対面研修やオンライン研修の時間は、主に、経験や考えを語り合う対話や、次のサイクルの質を高めるために実践を振り返ることに充てられます。また、日々の現場実践や、自主的な学びも、研修プロセスの重要な要素となります。

参加者の探究的な学びが、少しでも実りが多いものとなるよう、教職員支援機構(NITS)および講師陣は、参加者の探究的な学びをデザインし、伴走します。

研修全体の流れ

<1年コース> ※内容は現時点の予定であり、今後変更となる可能性があります。		<2年コース>	
研修 約1か月前 (R8.7.10)	事前説明会 ※60分程度を予定 ・研修のねらいの説明 ・事前課題の説明	約1か月前 (R8.9.25)	事前説明会 ※60分程度を予定 ・研修のねらいの説明 ・事前課題の説明
1~3日目 (R8.8.5 ~8.7)	対面研修 1日目：9:15~17:00 2日目：8:45~17:00 3日目：8:45~15:00 対話・ 振り返り	1~3日目 (R8.10.26 ~10.28)	対面研修 1日目：9:15~17:00 2日目：8:45~17:00 3日目：8:45~15:00 対話・ 振り返り
4日目 (R8.11.20)	オンライン研修 9:00~16:30 ・実践の振り返りと共有	4日目 (R9.1.12)	オンライン研修 9:00~16:30 ・実践の振り返りと共有、次年度へ向けて
5日目 (R9.2.2)	オンライン研修 9:00~16:30 ・実践の振り返りと共有 ・研修全体の振り返り	5日目 (R9.7-8月頃)	オンライン研修 9:00~16:30 ・実践の振り返りと共有
		6日目 (R9.11-12月頃)	オンライン研修 9:00~16:30 ・実践の振り返りと共有
		7~8日目 (R10.2月)	対面研修 1日目：9:15~17:00 2日目：9:00~15:00 ・実践の振り返りと共有・研修全体の振り返り

各書籍・動土及びNITS・講師との意見交換等

NITS が考える「新たな教職員の学び」や「研修観の転換」について、また、「コア研修」をはじめとした「探究型研修」への取組については、NITS の Web ページにて随時発信しています。

(<https://www.nits.go.jp/about/strategy/>)

